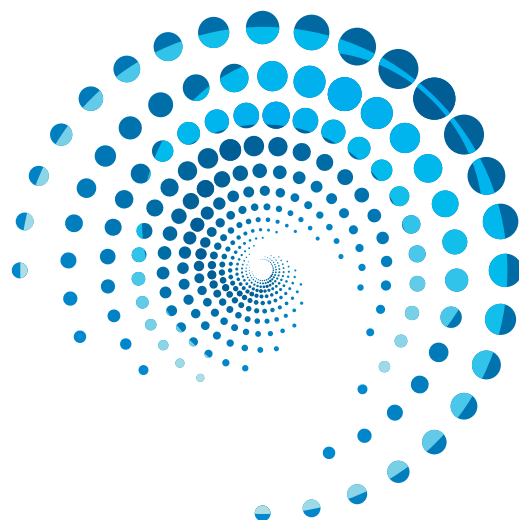




第28期

ビジネスレポート

2017年10月1日～2018年9月30日



事業拡大とさらなる成長に向けた 基盤固めを進めています

医薬品・医療機器のアウトソース市場では、新薬開発の推進や開発期間の短縮、開発コストの抑制に向けた需要が拡大する一方、一層のサービスの高品質化・効率化が求められています。

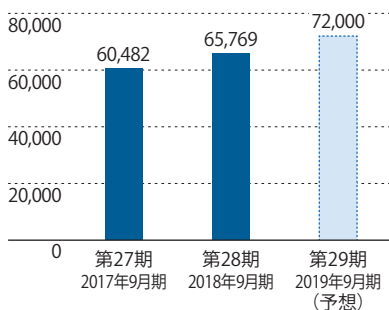
このような環境のもと、当社グループではさらなる成長に向けた基盤固めとして、国内では高効率と高品質の両立を図る組織・プロジェクト管理の強化、海外では製薬会

社への営業強化、管理コストの削減、ヘルスケア市場の深耕と開拓などを進めました。

これらの結果、当期の連結業績は売上高65,769百万円（前期比8.7%増）、営業利益7,193百万円（同5.2%減）、経常利益7,436百万円（同4.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益4,388百万円（同5.9%減）となりました。

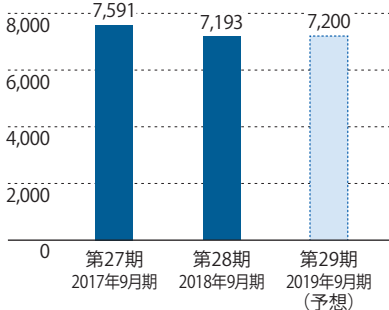
売上高

(単位:百万円)



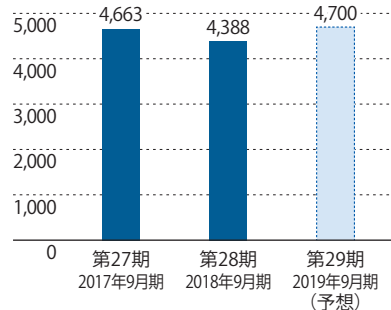
営業利益

(単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

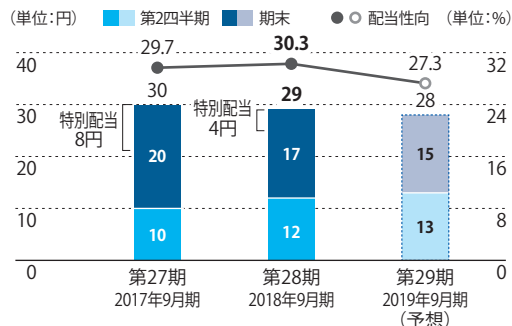
(単位:百万円)



株式還元について

当社は利益配分について、将来の事業展開と収益力向上に向け企業体質の強化に必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への利益還元を継続的に充実させていくことを基本方針とし、連結配当性向30%を目標に実施しています。

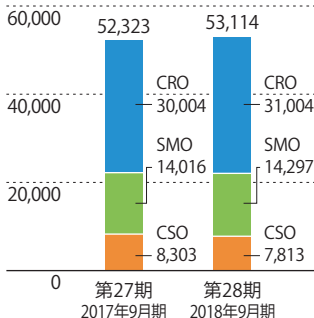
上記に則り、当期の期末配当金は、直近の配当予想(13円)から特別配当4円を増加し、1株当たり17円としました。中間配当12円と合わせた年間配当金は29円です。



国内事業概況

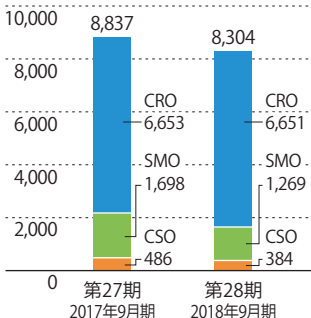
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



CRO事業は、治験業務が臨床開発のマネジメント強化と社内管理体制一元化を進めることで売上・利益とも計画を上回りました。その他の業務も概ね堅調に推移し、全体で売上高は前期比増、利益も前期並みを確保しました。

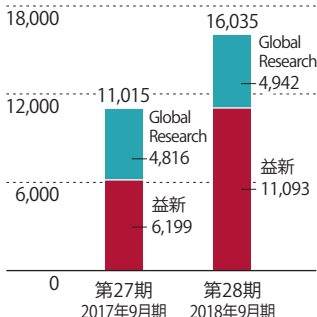
SMO事業は、統合が進捗し、プロジェクト管理の強化、品質管理体制の充実に取り組みました。業績については、医薬品開発の少数症例化による影響を利益面で受けました。

CSO事業は、医薬向けコールセンター部門が大阪地区でのコールセンター増床などにより好調に推移したものの、製薬会社のMR削減によるCMR部門の落ち込みを吸収できず、減収減益となりました。

海外事業概況

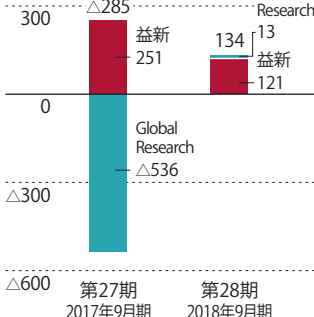
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



Global Research事業は、実施中のプロジェクトが堅調に進捗したほか、新規受注も寄与して売上高が拡大しました。営業利益も、アジアパシフィックの管理業務を日本で一元管理にしたことなどによりコスト効率が向上し、大幅に改善しています。

益新事業は、製品関連事業における継続的な既存市場深耕と新規市場開拓が収益拡大に寄与しました。中国の商流変化により、上海華新生物高技術有限公司の販売額が増加しています。また専門サービス事業では、現地の大手CROとの戦略的提携により、これまで業績面で苦戦を強いられてきた中国国内におけるCRO事業の再構築を図っています。

次期の見通し

収益基盤の強化、新たな付加価値創出に取り組みます

2019年9月期は、ホールディングス体制をさらに充実させてグループマネジメント力の強化を図ります。中期経営計画の実現を目指して、既存事業を強化しつつ新たな価値の創

出を図り、事業拡大のための投資を実行していきます。業績は売上高72,000百万円、営業利益7,200百万円、親会社株主に帰属する当期純利益4,700百万円を計画しています。

医薬品開発・臨床研究を支援する次世代サービスを構築

NRO (Next-stage(New) Research Organization) セグメントを再編成

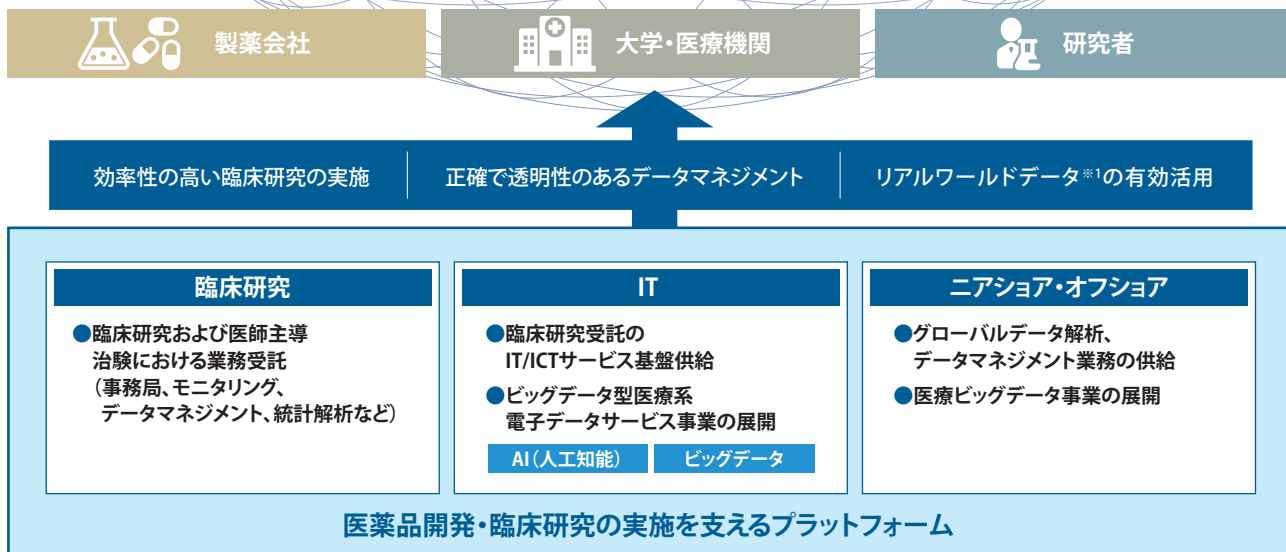
医薬品市場の競争が世界規模で激しくなるなかで、ジェネリック医薬品の普及促進もあいまって医薬品開発および臨床研究のコスト抑制が求められています。

さらに、2018年4月に施行された臨床研究法により、該当する研究の業務や手続きが厳格化されました。

こうしたなかで、製薬会社や医療機関にとって研究実施にともなう各業務の効率化と透明性確保が重要な課題であり、それらを解決する方法として、アウトソーシングの需要がますます高まっています。

このような背景のもと、当社は2018年10月にCPOセグメントを改編し、ITサービス2社、中国におけるデータサービス会社を加えてNROセグメントとして再編成しました。

NROセグメントでは、従来の医師主導治験および臨床研究の支援機能を中心とした専門サービスに加え、医薬ITを融合させた新たなサービスの構築、またニアショア、オフショアを活用した効率的なデータマネジメントサービスの体制整備などを通じて、新たな付加価値の創出を目指し、今後も、医療機関、製薬会社のご期待に応えていきます。



※1 臨床現場のデータ。診療報酬請求(レセプト)データなど実診療下のデータ、またはそのデータベースのこと

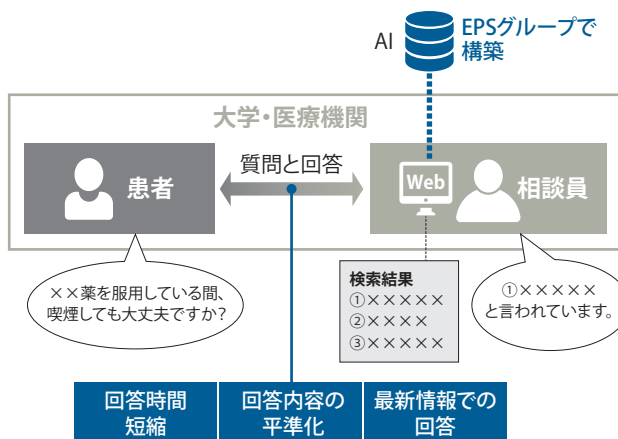
最新のIT導入例

AI(人工知能)化に向けて

診療ガイドラインの検索をAIがサポート

医療機関の相談員が用いる診療ガイドライン検索システムにAIの導入を進めています※2。相談員によるキーワード検索をAIがサポートし、インターネット上から適切な最新情報を素早く入手できます。患者様からの質問にその場で答えるスピードや回答の質を高め、さらに、相談員の力量に依存しないサービスの平準化も可能になります。

※2 当社グループでIT事業を担うイートリアルがシステムを開発



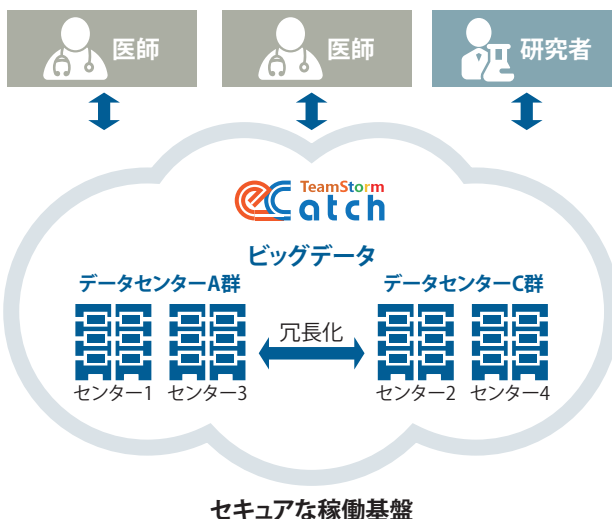
ビッグデータの活用

先進的EDCインフラでビッグデータの活用へ

医薬ITソリューション「e-Catch」※3を医療機関の臨床研究用クラウド型EDC※4インフラとして提案しています。医師の実務に合わせた操作性と多彩な機能で、クラウド環境でのデータ入力から収集、管理までを1つのパッケージで実現。臨床研究の効率と正確性・信頼性を高め、利用者を増やすことでビッグデータの活用につなげることが可能です。さらなる事業の拡大を図るため、PMS（製造販売後調査）向けの「e-Catch」の開発も始めています。

※3 往來技術が開発・保有するソリューション。当社は株式交換により2018年11月に同社を子会社化しました

※4 Electronic Data Capture: 電子的データ収集



MR業務効率化に人材とITを活用

スズケングループと 新たなビジネスモデルを創造

製薬会社では、業務効率化のためにMRの訪問コスト削減が進められています。しかし、医療現場との密な対話をなくしては、ニーズに最適な商品・サービスの提案や、医薬品の適正使用などに関する情報提供をすることができません。

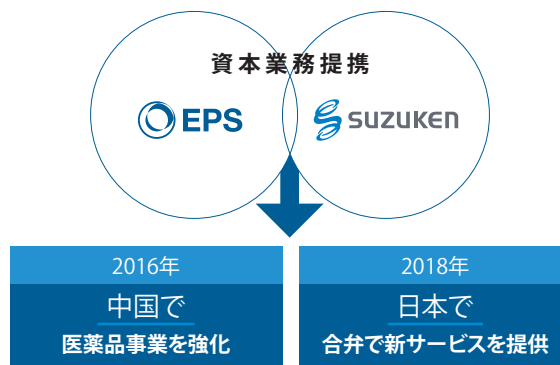
その課題解決に向け、当社グループは大手医薬品卸スズケンと2018年10月に合弁会社ESリンクを設立し、新たなビジネスモデルのサービスを開始しました。機動力の高いスズケンのMSがMRに代わって医療機関を訪問し、

医薬品情報などの専門的なコミュニケーションにはMSが携帯するタブレット端末を活用。端末と接続した当社グループのコンタクトセンターで、MR・薬剤師などの専門スタッフが「バーチャルMR」として医師の質問などに的確に応答します。このリモート・ディテールサービス「ESナビゲーション」により、MRの機能を確保しつつ大幅な業務改革を可能にします。

今後さらに、両社の機能を統合した新たなサービスで、総合的に製薬会社の業務改革に貢献していきます。

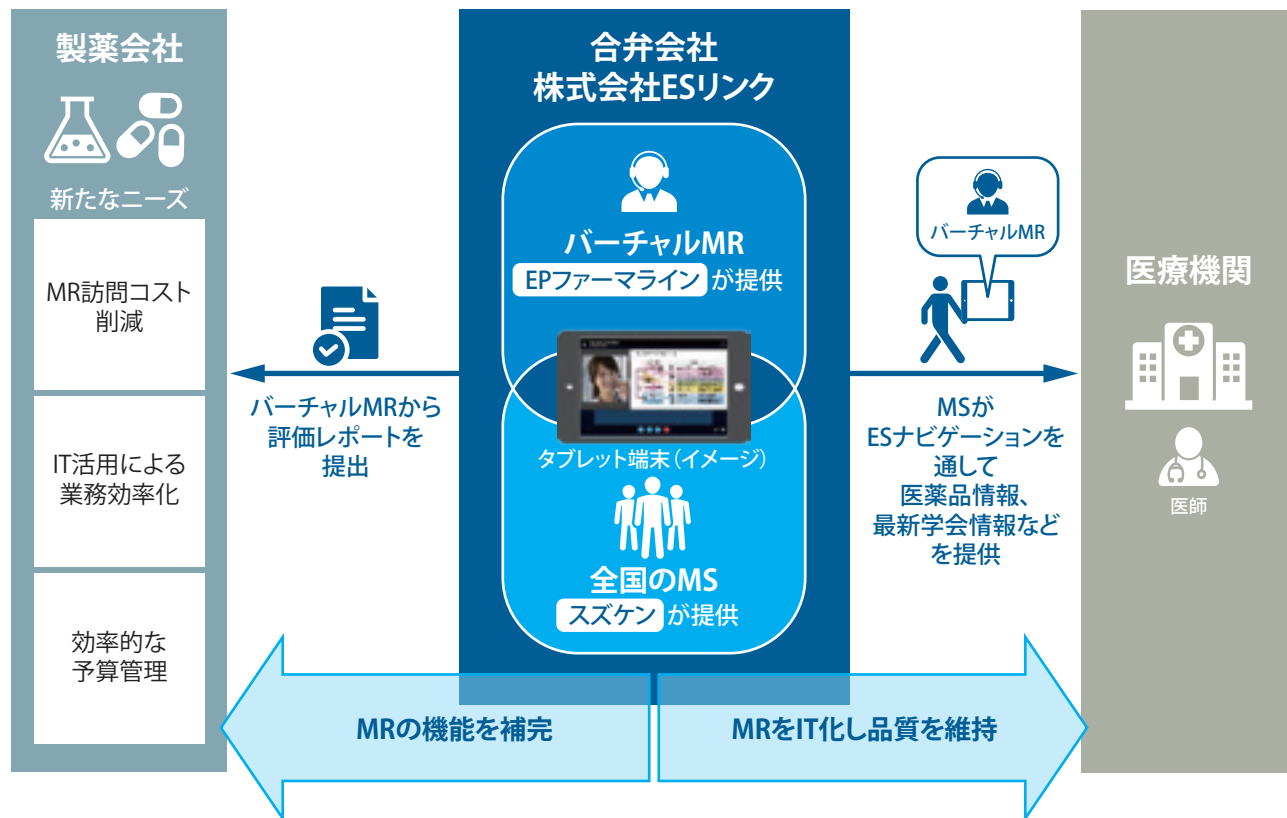
EPSグループとスズケンとの協業の歩み

当社とスズケンは2016年の資本業務提携後、中国を中心に共同で事業を展開しています。また同社はEPS益新とも業務提携しており、中国での医薬品事業のパートナーでもあります。今後さらに協力関係を強め、革新的なサービスの開発を推進していく予定です。



ESリンクが提供するビジネスモデル

製薬会社の課題を人材とITで解決



用語解説

MRとは…

MR (Medical Representatives) とは、製薬会社の営業担当者のことです。医薬品の適正使用に必要な情報を医師らに提供するとともに医療現場の情報を収集することを使命とし、自社医薬品の普及につなげます。医薬品の販売は担当しません。

MSとは…

MS (Marketing Specialist) とは、医薬品卸売業の営業担当者のことです。医療機関・保険薬局などを日常的に訪問して医薬品の紹介と商談を担うほか、医薬品などに関する情報の提供や収集を行います。

決算報告

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
資産の部		
I 流動資産	44,023	42,170
II 固定資産	20,322	23,280
有形固定資産	4,145	4,892
無形固定資産	7,834	7,402
投資その他の資産	8,342	10,985
資産合計	64,345	65,450
負債の部		
I 流動負債	15,287	14,587
II 固定負債	4,195	4,119
負債合計	19,483	18,706
純資産の部		
I 株主資本	40,545	41,670
II その他の包括利益累計額	1,272	1,864
III 非支配株主持分	3,043	3,209
純資産合計	44,862	46,743
負債純資産合計	64,345	65,450

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
I 売上高	60,482	65,769
II 売上原価	41,406	42,469
売上総利益	19,075	23,299
III 販売費及び一般管理費	11,484	16,106
営業利益	7,591	7,193
IV 営業外収益	334	354
V 営業外費用	115	110
経常利益	7,809	7,436
VI 特別利益	311	—
VII 特別損失	86	208
税金等調整前当期純利益	8,034	7,228
法人税等合計	3,057	2,637
非支配株主に帰属する 当期純利益	313	202
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,663	4,388

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
I 株主資本	40,545	41,670
資本金	3,888	3,888
資本剰余金	13,451	13,601
利益剰余金	23,437	26,347
自己株式	△ 230	△ 2,167
II その他の包括利益累計額	1,272	1,864
その他有価証券評価差額金	372	1,012
為替換算調整勘定	1,007	861
退職給付に係る調整累計額	△ 107	△ 9
III 非支配株主持分	3,043	3,209
純資産合計	44,862	46,743

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	7,835	3,465
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,726	△ 3,489
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	2,005	△ 4,259
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	375	△ 61
V 現金及び現金同等物の増減額	6,490	△ 4,344
VI 現金及び現金同等物の期首残高	16,607	23,097
VII 現金及び現金同等物の期末残高	23,097	18,753

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。
個別注記表は、Webサイトにて開示しています。

会社の概要 (2018年12月21日現在)

会社名	EPSホールディングス株式会社
英文名称	EPS Holdings, Inc.
所在地	東京都新宿区津久戸町1番8号 神楽坂AKビル6階
連絡先	TEL: 03-5684-7873 (代)
設立日	1991年5月
資本金	38億8,800万円
代表者	代表取締役 巖 浩
主要グループ会社	<p>CRO イーピーエス株式会社 株式会社EPSアソシエイト 株式会社イーピーメイト</p> <p>SMO 株式会社EP総合</p> <p>CSO 株式会社EPファーマライン 株式会社ESリンク</p> <p>NRO EPクルーズ株式会社 イートライアル株式会社 往来技術株式会社</p> <p>Global Research EPSインターナショナル株式会社</p> <p>益新 EPS益新株式会社 益新(中国)有限公司 上海華新生物高技術有限公司</p> <p>その他 株式会社イーピービズ</p>

取締役および監査役 (2018年12月21日現在)

代表取締役	巖 浩 田代 伸郎 田中 尚
取締役	折橋 秀三 関谷 和樹
取締役(社外)	安藤 佳則
監査役	富永 俱弘
監査役(社外)	船橋 晴雄 辻 純一郎

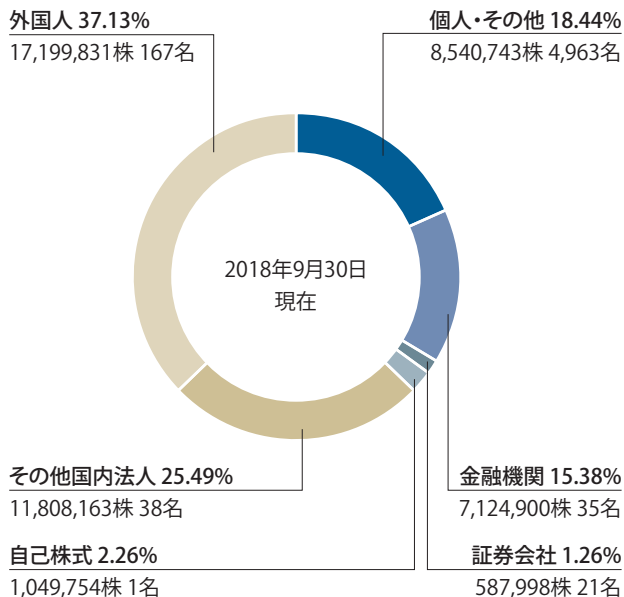
株式の状況 (2018年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	129,600,000 株
発行済株式総数	46,311,389 株
株主数	5,225 名

大株主 (2018年9月30日現在)

株主名	所有株数 (100株)	持株比率 (%)
有限会社ワイ・アンド・ジー	97,440	21.04
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	47,186	10.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	17,128	3.69
GOVERNMENT OF NORWAY	16,914	3.65
株式会社スズケン	15,040	3.24
佐々木 幸弘	13,893	2.99
西野 晴夫	13,878	2.99
SSBTC CLIENT OMNIB US ACCOUNT	13,060	2.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	11,438	2.46
住友生命保険相互会社	10,800	2.33

所有者別分布



株式のご案内

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年9月末日 第2四半期配当 毎年3月末日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店 および全国各支店で行っています。
電子公告を掲載する ホームページ	http://www.eps-holdings.co.jp/

IRに関するお問い合わせ先

TEL :03-5684-7873 FAX :03-5804-0361
E-mail: ir@eps.co.jp
URL :<http://www.eps-holdings.co.jp/>

将来の予想について

本報告書に記載されている、将来に関する予想については、現在入手可能な情報から当社経営陣の判断に基づいて行った予想であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これらの予想とは異なる結果となる場合があります。

お知らせ

住所変更等のお申出先について

株主様の口座がある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しています「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認ください。なお、配当金領収書にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいています。確定申告をなされる株主様は大切に保管してください。



EPSホールディングス株式会社

このビジネスレポートは適切に管理された森林から伐採された木材を原料とするFSC®認証紙を使用しています。また環境負荷の少ないUVエコインキを使用し、水無し印刷で印刷しています。